

逢初川河川計画と市道計画に関する説明会結果【10時からの部】

日時：令和4年3月27日（日）10：00～11：10

場所：岸谷会館

熱海市 都市整備課、まちづくり課

静岡県 東部農林事務所、森林保全課、熱海土木事務所

1. 開会

2. 挨拶

3. 説明

(1) 逢初川河川計画について

(2) 逢初川沿いの市道計画について

4. 質疑応答

・伊豆山神社線につながる道はどうなるのか。お地藏さんから下る道以外にないのか。

→伊豆山神社線への接続は重要と理解している。ただし、高低差の処理が課題であり、現状では具体案を示すことができていない。接続できるよう検討を進めていく。(市)

・自力で住宅を建てられる人やそうでない人など様々だが、自力で住宅を再建できない方への税制優遇や支援などはどのようになるのか。

→今日時点では、明確に回答できないが、持ち帰って示せるようにする。(市)

→責任ある方が出席すると聞いていたはず。今日でいえば杉山専門監がいつまでに回答するかを示すべき。定例記者会見で進捗報告だけでもできないのか。住民と行政の溝が解消されないままとなっては事業を進める際のデメリットになりかねない。(県)

・7月の発災当時も総務課長が体調不良となり、相談したくてもできずに1週間ずれた経験が生かされていない。市の危機管理体制はいかかなものか。(県)

→副市長がコロナになり、幹部も濃厚接触の可能性があって、本日出席できていない。市の危機管理能力の改善については十分に承知しており、お詫び申し上げる。(市)

・電話で今つなげることができないか。

→申し訳ないが、今はできない。(市)

・市長は昨日の復興計画検討委員会には出席していたが、今日はなぜ出席できないのか。

→出席できずに申し訳ない。(市)

・歩行者だけが渡れる橋（人道橋）をボックスカルバートの橋の間に数か所設けることはできないか（車も渡れるとベターだが少なくとも人だけでも）。いちいち回らないと対岸にいけないのは不便である。

→今の意見を持ち帰り検討を進めていく。(市)

・安心・安全の確保や発災の検証もまだ終わっていない。復興計画もまだ検討段階であると復興計画検討委員会でも説明があったはず。そのような状況でなぜ今回のような具体的な計画案が出てくるのか違和感がある。川の兩岸に道を設けることは市長の思いを絵にただけではないのか。

→具体事業の検証は今後詰めていくが、今日は検討案として示させていただいた。土地利用についてはこれから個別交渉となる。(市)

→市長が2年たったら戻れるようにすることを当初掲げており、それに合わせるように県は検討を進め、4月に用地買収に入ることを共有していたが、市は復興計画の作成を延長する話がある。県の河川工事は国の砂防工事と両輪で行っていきたいことから、市のまちづくり計画を早くしてほしいと要請を進めている。河川は直売方式で始めていきたく、4月の時期には市の対応方針を説明してもらうようお願いしていた。河川工事を進めていくにも復興まちづくりの事業スケジュールが決まらないと遅くなってしまう。

(県)

→一方で、熱海市の防災計画の更新を控えているが、土石流災害について未記載となっている。不手際の検証・改善をする段階だと思うが、こうした点にも踏み込んでいくべきと思う。(県)

→内部で検証を進めている。振り返り作業が取まとまっている部分も部分的に出てきている。(市)

・伊豆山神社線に接続できるかわからないのに3本も道を作る必要があるのか。新たな道路ができることで防犯面が心配だ。道路整備により観光客を誘引する意図があるのであれば、整備費の一部を防犯対策に使えないのか。

→意見の1つとして持ち帰る。急勾配、狭隘な地域課題を踏まえて伊豆山神社線への接続の検討を進めていく。(市)

5. 閉会

4月以降、用地補償に入っていきたいと考えている。

・用地補償に入るということは、計画は決定したということか。

→県の事業の部分については用地補償に入っていくという意図である。(市)

逢初川河川計画と市道計画に関する説明会結果【13時からの部】

日時：令和4年3月27日（日）13：00～14：30

場所：岸谷会館

熱海市 都市整備課、まちづくり課

静岡県 東部農林事務所、森林保全課、熱海土木事務所

1. 開会

2. 挨拶

3. 説明

(1) 逢初川河川計画について

(2) 逢初川沿いの市道計画について

4. 質疑応答

・伊豆山神社線に抜けるところの道路は今後どのように接続するのか。計画の肝となると思うが、示されていないのはなぜか。

→勾配のきつい箇所が課題となっており、接続方針を具体的に示せる図は現在はない。接続位置や線形については今後地権者をはじめとした関係者とも協議を進めていくため、説明できる時期について今日は示せない。(市)

・海側の道路改良はどこまでが範囲となるのか。国道とつながる部分も示していったほしい。

→逢初川の下流部は暗渠とし、上部に道路を通す。新幹線の線路の箇所は狭くなるため道路拡幅等は構造的に難しい。市が検討案を早く示したうえで地元と協議をしていくべき。(県)

・警戒区域内にはいつ頃戻られるのか。すべての工事が終わってからになるのか。

→警戒区域の解除については国・県と協議中である。今年の7月をめどにスケジュール等に関する回答をできるように調整中である。(市)

→復興計画検討委員会では、源頭部の安全性、ライフラインの整備、家賃補助などがいつ戻られるかに関わっていると市から説明があった。当初熱海市長は2年を目標としていたが、遅れていることが県の工事にも影響している。行政としては、目標時期を示して、そこからどうすればできるかを考えていくべき。(県)

・市と県がうまくイニシアチブを取るべきと思うが、どちらがとるのか。タッグを組むならば、しっかりしてほしい。不協和音のまま進んでいるように見える。

→市の事情も十分承知しているが、住民目線ではそうもいかない。しっかりと連携したい(県)

- ・上流部は河川を拡幅しないことは理解した。一方、管理用通路でグレーに塗られている区間は今後拡幅していくのか。自宅の公費解体の期限が3月末に迫っている。道路拡幅で立ち退きになるのであれば、住宅再建を考え直さないといけない。上流側の道路整備はいつ頃になるのか。住民目線にたってスケジュールを示してほしい。
- 具体の検討を進めているところだが、示せる回答はない。要望は承り関係者に伝えておく。急ぎよ金曜日に代理で出席することが決まったため、満足のいく回答ができず申し訳ない。(市)
- 質問された方にしっかりと回答として返すことで真摯に対応できないのか。直売の用地買収では、管理用通路沿いに中途半端な残地が残ることで、地権者の同意が得られず、県の河川改修が進まないことを懸念している。(県)
- ・もともと水量は多いと思っていたが、大量の雨が降った後の対応が川の改良により行われることは理解した。一方、普段の川の状態はどうなるのか。常時川底が水で埋まっているのか。親水機能として子供が遊ぶことも考えられるが、考えがあれば教えてほしい。
- イメージとしては、川底のコンクリートに埋まる石の間を、川の水が流れる状態を想定している。勾配がきつい関係上、人が降りて親水機能を設けることは現状では難しいと考えられる。柵を設けて川には入れないように安全を確保する予定である。(県)
- ・管理用通路に歩道や白線はつくのか。見方によっては、景観のよい通りになり、観光客にもよいと考える。通路幅が広がると必要な用地が広がるため、人や車の必要幅などの根拠が整理され示されるとよい。
- 歩道はつかない。白線を付けるかどうかを含めて、検討中である。(市)
- ・4mで歩道がないという道がどのような道なのか、イメージがしにくい。戻ろうとしている住民の意思を引き留めるような努力をしてほしい。
- 具体の検討が進んでいない点は申し訳ないと思っている。皆様から意見を聞いて検討していく体制はとりたいと思う。(市)
- ・川沿いに歩道がないという話と、市長が去年の10月に示していた遊歩道の設置については辻褄が合わないように聞こえる。管理用通路は遊歩道ではないのか。
- 責任を持った回答をこの場ではできない。具体の回答ができるように庁内で共有しておく。(市)
- ・河川の整備が決まらないと道路が決まらないのか。同時並行で進めていくものと思う。住宅の修繕を行う業者も道路がないとできないのではないか。
- 責任を持った回答をこの場ではできない。歩道の設置も不可ではなく、検討を進めていく(市)
- 河川の工事は、砂防堰堤の竣工前にも可能であり、河川と道路は同時並行的に整備していくべきと思っている。市の計画が出てこないと一体的な施工ができずに事業は進まない。(県)

- ・市道の計画案、スケジュールは早く住民に示してほしい。
- ・地元の声をよく聞いて進めていってほしい。発災後1年となる7月3日より前にスケジュールや方針を示すべき。そのうえで多くの方々に賛同してもらって計画を作成して欲しい。市も県も一枚岩になって同じ方向を向いて事業を起こして欲しい。

→承知した。(市)

→広島県の事例からすると、半年程度スケジュールの遅延となっている。市には急ぐように要望を出している(県)

- ・今日の説明会で何を持って帰ればよいのか。市長が来るべきと思った。残念である。
- ・地元の声を聞きながら、よい川とよい道をつくってほしい。場合によっては一人ひとり説明が必要ではないか。行政の方も大儀や気持ちを持った方を集めて、よい伊豆山をつくって欲しい。
- ・借り上げ仮設住宅が2年を過ぎた後はどうなっているのか。

→2年後の延長も加味して国と協議をしているところ。決まった段階で改めて報告する。

(市)

- ・説明会の案内は2週間前だったため、もっと早く周知してほしい。

5. 閉会

4月以降に補償の相談を進めていく。市も同行したい。